

カキは古来から人類の食品として用いられ健康に対し良質な食品であることによく知られて
いる事実である。我々は1984年カキ抽出物をラットに投与し、Znを中心として体内無機質の
変動について実験を行って原子吸光分析を用いて測定した所、はからずともLiの増加傾向を
みとめた。そこでLi₂CO₃を精神科領域において利用されてはいる所から、Li₂CO₃投与群
と、カキ投与群において、トリプトファン代謝物、セロトニン経路の代謝について実
験を行って、両群ともに同様の代謝変動の傾向を認め、この本報から報告した。次に
木村潔(愛知医大精神科)を中心として1985年分留病急務における体内Zn量の減少を報告して
いるので、木村らに患者らに家族の了承の上、カキ抽出物を患者に投与して、破血型分裂病
において、いかにその病状の回復をみることに成功した。したがって精神病患者にたいし
る食事療法を確立するたため、次の林学実験を行って、カキに含まれている重要成分として、
セロトニンを中心とした実験を行って、この報告する。

(実験結果)①鈴江(元京都大学病理学)青木、丹々(体化学第II病理)らと共にZn含有化合物のウサ
ギへの投与を行って、小脳におけるZn量の増加をみとめた。②外川、岩田(福沢女子短大)ら
と共にウラリンのラットへの投与を行って、セロトニン経路の調節が行われるたため、脳、
肝においてセロトニン量の減少をみとめた。因下、これらカキ成分のj、それらが単独に
作用してはいるのか、あるいはウラリンとかがZnとキレートして作用してはいるのか、
検討を行って、いる。

(文献) 横峯 与木; 微量栄養素研究, 1, 19, (1984); 柴田幸雄; 同上, 2, 147 (1985)